

ほうだにさとやまほぜんかい おかやまけんおかやまやし  
母谷里山保全会 (岡山県岡山市)

- 本地域は、岡山県のほぼ中央部に位置し水稻を中心とした農業を主要産業としていましたが、近年、工業団地の整備により都市化が進む中で、環境の変化に対応できない動植物の減少等があり、「里地里山の保全と継続可能な利用」を掲げ、活動を開始する。
- 里地里山に生息・生育する在来の野生生物を次世代に残すため、生物の生態学を専門とする大学の研究チームと連携し、専門的な見地からアドバイスを受け生態系保全活動を実施。
- 活動組織の防災に関する話し合いが深まり、「自主防災会」を設立。多面的機能支払交付金の活動と連携し、災害時の被害を最小限に食い止める活動に取り組む。

### 【地区概要】

- ・取組面積19ha (田17ha、畑2ha)
- ・資源量 水路6km、農道1km  
ため池2箇所
- ・主な構成員 農業者・非農家  
・一般企業(3社)
- ・交付金 97万円(H29)  
農地維持支払  
資源向上支払(共同)

### 活動開始前の状況や課題

○ 本地域の自然環境は、手入れが行き届かなくなった、里地里山が増加し、環境の変化に対応できない動植物が減少したり、逆に増えすぎたりする課題があった。さらに、生活や価値観の転換とともに、子供に限らず大人も含め住民の関心が薄れていた。

○農業においては、農家の高齢化が進み離農する農地の管理作業について、新たな担い手の確保が必要であった。

【母谷里山保全会のエリア】



### 取組内容

○ 生物の生態学を研究する大学チームと連携して、生態系保全活動を実施し、地域住民及び小学生に学習の場を提供。

これまでに、「池干しと併せて水生昆虫確認と外来種の駆除」、「絶滅危惧種の保護活動」、「遊休農地を活用したレンゲに集まる生き物調査」を実施する。

○自然災害において地域の役割について話し合いが深まり、「自主防災会」を設立、災害発生時における情報収集、伝達方法について整理している。今後、ため池等の公共施設が被災した場合の避難誘導について作成中。

○高齢農家の農地に係る管理作業について、話し合いを行い、特別栽培農産物を作付けしている担い手と協力し、地域で支える体制の構築を進める。受け入れのため、遊休農地にレンゲを植え、緑肥効果を活用した農地の土づくりを行う。

### 取組の効果

○生態系保全活動を実施し、生態系の重要生を学ぶ！

【池干し】



ブラックバス 169尾を駆除

【レンゲ畑で昆虫調査】



多様な生き物を発見

○地域一体となって防災力の強化。



被災時に備え、農村環境保全活動において、婦人組織と連携し非常時の炊き出し

○特別栽培農産物に挑戦。



1haの遊休農地で化学肥料・農薬の使用量が少なくなるための土づくり開始